

総合教育センター *NOW*

センターNews

総教セ公式Instagram開設しました！

令和6年12月に富山県総合教育センターの公式Instagramを開設しました。研修・講座のお知らせ、研修風景、調査研究事業等、先生方に役立つ情報を随時発信しています。是非、フォローをお願いします。



教育研修部

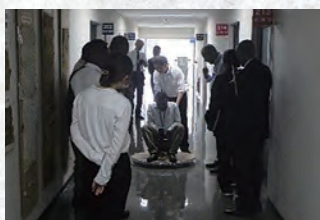
教員研修のプラットフォームとして

令和7年度の研修は、一人一人の教員が必要な知識や現場で生かせる実践的なスキルを学ぶ内容、理論と実践を融合させる内容になるよう実施します。特に、各年次研修の「チーム学校を支えるマネジメント、学習指導や生徒指導、特別支援教育」等にかかわるものは、意見交換を交えて課題や解決策を共有できるグループワークを取り入れます。各研修では、日頃の実践を振り返りながら、教員同士の対話を通じて新たな気づきや教育ニーズに合った実践方法を知ることができるように、互いの経験や考えを積極的に共有することが大切です。また、自らの課題や目標を明確にし、研修内容を自分の実践に結び付ける意識をもって臨むことで、研修の効果を高めることもできます。「授業改善のヒントが得られる」「これからは新たな視点で取り組もう」と学び続ける先生方を支えるとともに、横とつながる先生方のネットワークをつくり、新たな知見を得られる「学びと交流の拠点」、研修のプラットフォームとして大いに活用してください。

科学情報部

エチオピアの理科担当指導主事等によるセンター訪問（10月30日）

国際交流事業の一環としてエチオピア連邦民主共和国より理科担当指導主事等18名が富山県総合教育センターに来訪しました。科学情報部理科教育室のスタッフによる物理・化学・生物・地学の4分野についての実験実技研修を実施しました。言葉や文化の違いはあるものの、教育への情熱は世界共通で、通訳を通して実験器具や指導法について熱心に質問する姿が印象的でした。今回の研修経験をエチオピアでの理科教育の発展に役立ててもらえればと思います。また、11月29日にはJICA青年研修としてアフリカ各国の教育関係者9名が来訪しました。今後の継続が期待されます。



物理：乗用ホバークラフト体験



化学：空気中の分子の模型製作



生物：葉脈標本の製作



地学：月の満ち欠け模型の製作

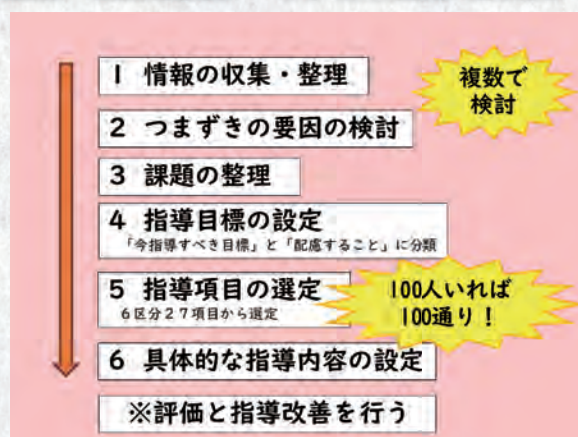
教育相談部

特別支援教育資料「自立活動 目標・内容設定シート」をご利用ください！

児童生徒等の多様な障害の状態等に応じた自立活動の内容を考えられるよう「自立活動目標・内容設定シート」を作成しました。

このシートを基に、複数の関わる教員で情報を収集したり、つまづきの要因を検討したりすることで、今指導すべき課題が明確になり、指導に生かすことができます。加えて、具体的に強みや興味を生かした内容を考え、意欲的に取り組めそうな活動を計画することもできます。自立活動がよく分からないという先生方にもおすすめです。

様式等は、富山県総合教育センターウェブサイト
(<https://www.center.tym.ed.jp>) からアクセスできます。



とやまの小・中学生ライフプラン教育充実事業

県教育委員会では、子供たちが富山で働き、暮らし、子育てするよさを知り、自分のライフプランを考えることができるよう、小・中学校等の授業で活用できるライフプラン教育用デジタルブックの作成や「ライフデザインセミナー」（地域で活躍する方の講話）、「乳幼児ふれあい体験」の実施を通して、ライフプラン教育の普及・充実を図っています。

今年度、「ライフデザインセミナー」を受けた児童生徒からは、「夢に向かって一生懸命に頑張る大切さを学ぶことができた」「夢は決まっていなくても、将来のためにいろいろなことにチャレンジしたい」などの感想が聞かれました。また、「乳幼児ふれあい体験」を実施した学校からは、「生徒は穏やかに乳児に接し、家庭のことを振り返ったり、将来について想像を膨らませたりしていた」との報告がありました。

今後も本事業を継続し、県内の小・中学生がライフプランについて考える環境を整えていきたいと考えています。

ふるさととやまの自然・科学ポイントラリー

県教育委員会では、富山の自然等を通して探究する態度や科学する心を育てるために、副読本「ふるさととやまの自然・科学ものがたり」を作成し、電子ブック化するとともに、活用リーフレットを発行しました。そして、掲載されている自然や施設の見学、観察・実験を行うことにポイントがたまるポイントラリーを、小学生を対象に実施し、20ポイントに達した児童には認定証を交付しています。

今後も、授業や地域学習での利用、家庭学習等での活用を促すなど、子供たちの探究心の育成につなげていきたいと考えています。



幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指して

富山県幼児教育センターでは、幼児教育と小学校教育の接続を推進しており、令和6年度は、市町村とともに取り組んでいます。

幼児教育施設は、公立・私立、幼稚園・保育所・認定こども園等、施設類型が多岐にわたり、園・所の教育理念も様々です。市町村においては、各施設を主管する部局と小学校等を主管する教育委員会が連絡を密にする必要があります。そこで、本センターでは行政内における連携のきっかけづくりからスタートし、幼・小それぞれの担当部局が、接続推進について一緒に考えていくための支援を行っています。



令和6年度地区別幼・小接続研修会の様子

幼児期における「学びの芽生え」を、小学校の「自覚的な学び」へと円滑につなげるため、学校全体、地域全体の取組として持続していくことが大切です。市町村が目指す方向性を明確にしてリーダーシップをとり、接続を進められるよう、そして、先生方や子供たちがこれまで以上に笑顔で過ごすことができるよう、市町村の要望に応じて支援したいと考えています。

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果より

令和6年4月に全国学力・学習状況調査が実施されました。7月に文部科学省より結果が公表され、本県は、小・中学校とも全ての教科において全国の平均正答率以上の結果となりました。

本県の学校教育は、市町村教育委員会や各学校における個に応じたきめ細かな指導の積み重ねや保護者、地域の方々の理解と協力により、支えられているものと考えております。今後も学習習慣、生活習慣の定着や授業改善等に取り組み、子供たちの学びを支えていくことが大切であり、引き続き市町村教育委員会と連携しながら、各学校の取組を支援してまいります。

	小学校6年		中学校3年	
	国語	算数	国語	数学
本県平均正答率	69%	64%	60%	56%
全国平均正答率	68%	63%	58%	53%

令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等に関する調査

— 暴力行為・いじめ・不登校 —

文部科学省の「令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果（県内国公立学校分）が、10月に公表されました。＜文部科学省の公表データのみ記載＞

【暴力行為の発生件数】

（ ）は、本県・全国の1,000人当たりの発生件数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校	合 計
R 5	871 (18.8) (国11.5)	452 (17.9) (国10.4)	56 (2.2) (国1.7)	1,379 (14.2) (国8.7)
R 4	501 (10.6) (国9.9)	338 (13.1) (国9.2)	30 (1.2) (国1.3)	869 (8.8) (国7.5)

暴力行為の発生件数は、R4年度と比べ、全ての校種で増加しています。1,000人当たりの発生件数は、全ての校種で全国平均を上回っています。

【いじめの認知件数】

（ ）は、本県・全国の1,000人当たりの認知件数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校	特別支援学校	合 計
R 5	2,168	764	133	35	3,100 (31.6) (国57.9)
R 4	1,107	693	131	32	1,963 (19.6) (国53.3)

いじめの認知件数は、R4年度と比べ、全ての校種で増加しています。県全体の1,000人当たりの認知件数は、全国平均を下回っています。

【不登校児童生徒数】

（ ）は、本県・全国の1,000人当たりの不登校児童生徒数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校
R 5	1,110 (24.0) (国21.4)	1,531 (60.7) (国67.1)	614 (25.1) (国23.5)
R 4	856 (18.2) (国17.0)	1,336 (51.7) (国59.8)	483 (19.2) (国20.4)

不登校児童生徒数は、R4年度と比べ、全校種で増加しています。1,000人当たりの人数は、小学校と高等学校は全国平均を上回り、中学校は全国平均を下回っています。

日ごろから規範意識の醸成や自己肯定感の向上、教育相談体制の充実等の取組により、問題行動や不登校の未然防止を図るとともに、児童生徒をきめ細かく見守り、家庭や専門家、関係機関と連携して早期発見・早期対応に努めることが大切です。

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

スポーツ庁が発表した調査結果（概要）には「中学校男子ではコロナ前の水準に戻ったが、小学校男子及び中学校女子では前年度からほぼ横ばい、小学校女子は引き続き低下している。」とあり、「運動時間がコロナ禍前の水準には至っていないこと」と「スクリーンタイム※の増加などの生活習慣の変化」といった傾向が挙げられています。

本県の体力合計点は、小学校ではコロナで低下した体力合計点が昨年までは改善傾向にありましたが、今年度は男女共に低下し、全国と同様に再び低下しています。中学校男子では改善し、コロナ禍（令和元年）以前の水準に戻りつつありますが、中学校女子においては昨年に引き続き低下しており、総合的な体力は低下を続けています。

※スクリーンタイム…平日1日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等による映像の視聴時間

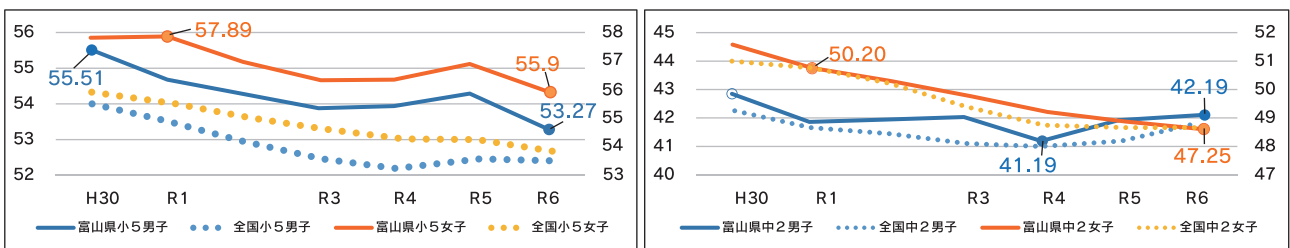
1 体力・運動能力、運動習慣等調査結果の富山県概要

〈小5・中2の調査結果：悉皆調査〉

（ 網かけ ： 本県平均値が全国平均値以上の種目）

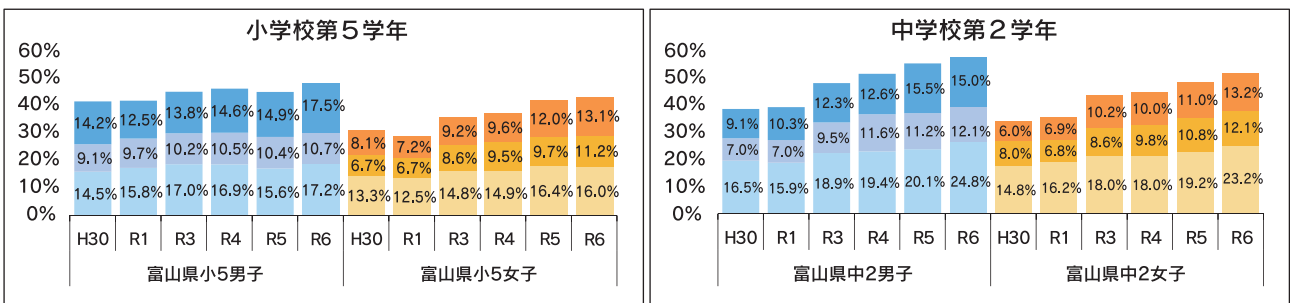
種 目 等	小学校第5学年（公立）				中学校第2学年（公立）			
	男 子		女 子		男 子		女 子	
	本県	全国	本県	全国	本県	全国	本県	全国
握力 (kg)	16.05	16.01	15.94	15.77	28.59	28.95	22.59	23.18
上体起こし (回)	19.15	19.19	18.43	18.16	25.60	25.94	20.93	21.56
長座体前屈 (cm)	33.63	33.79	38.21	38.19	44.08	44.47	46.26	46.47
反復横とび (点)	42.26	40.66	40.91	38.70	51.76	51.51	45.40	45.65
持久走 (秒)					409.18	410.69	311.44	309.02
20mシャトルラン(回)	50.17	46.90	41.27	36.59	81.02	78.98	51.75	50.67
50m走 (秒)	9.58	9.50	9.76	9.77	8.04	7.99	9.03	8.96
立ち幅とび (cm)	154.13	150.42	148.81	143.13	199.51	197.18	167.29	166.32
ボール投げ (m)	21.37	20.75	14.42	13.15	21.28	20.57	12.75	12.40
体力合計点	53.27	52.53	55.90	53.92	42.19	41.86	47.25	47.37

2 体力合計点（各種目の記録をそれぞれ得点化し、合計した点数の平均値）の推移



※令和2年度は調査なし

3 スクリーンタイム（平日の視聴時間が3時間以上の割合）の推移



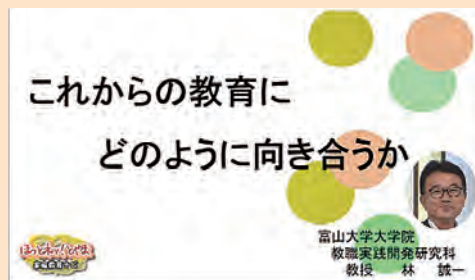
※積算グラフは下から「3～4時間」、「4～5時間」、「5時間以上」

本県の小・中学生の男女においても、スクリーンタイムは引き続き増加傾向が見られます。児童生徒一人一人がスクリーンタイムを含めた生活を見直すとともに、生活の中に運動の習慣を位置付けるなど、規則正しい健康的な生活習慣をつくるのが重要です。

また、運動を行うことで脳の働きが活発になり、集中力が高まったり、不安な気持ちが和らいだりすると報告されています。児童生徒が心身ともに健康な生活を送っていくためにも、運動の効果や必要性について、児童生徒及び保護者に繰り返し伝えていくことが大切です。

子育てネッ!とやま

今年度も親子のコミュニケーションに生かすことができる家庭教育に関する動画を制作し、HP「子育てネッ!とやま」で配信していますので、是非ご利用ください。また、家庭教育や子育てに関する情報を「子育てネッ!とやま」LINE公式アカウントで随時配信しています。



家庭教育講座（動画）令和6年10月公開

公民館deつながるモデル事業

県では「公民館deつながるモデル事業」に取り組んでいます。地域住民の交流の拠点である公民館が、これまで提供してきた集合対面型の事業とデジタル技術を組み合わせ、人々が多様に繋がる新たな公民館活動を支援する事業です。

今年度は、8市町の10モデル公民館が参加し、デジタル

技術を活用したさまざまな活動に取り組んでいます。オンライン講座の進行方法やSNS活用法、二次元バーコードの使い方等、デジタル活用に関する5回の実技講座と実践発表会を通じて、公民館職員のスキルアップが図られました。モデル公民館では、ホームページやInstagramを活用した活動情報の発信に加え、ハイブリッド形式の講座やオンライン交流会など、県内外公民館との繋がりを深める取組みが進められました。これにより、公民館職員は楽しみながらスキルを磨き、その成果として地域活動がより魅力的で効果的に展開されています。今後、この取組みがさらに地域活性化につながることを期待しています。



公民館職員「スキルアップ講座」



県外公民館とのオンライン交流

中学校・義務教育学校及び高等学校卒業者の進路状況調査結果

— 令和6年5月1日現在 —

1 中学校・義務教育学校 <表1>

令和6年3月に県内の中学校(国立1校、公立74校1分校、私立1校)、義務教育学校(公立3校)を卒業した生徒は8,618人でした。高等学校等進学率は99.2%、就職率は0.1%でした。

<表1> 中学校・義務教育学校卒業者の進路状況

各年 3月	実 数 (人)						割 合 (%)		
	a 卒業生	b 高等学校等 進学者	c 専修 学校等 進・入 学者	d 就職者	e その他	f (再掲) b,cの うち 就職者	b/a 高等 学校等 進学率	c/a 専修 学校等 進・入 学率	(d+f)/a 就職率
R4	8,907	8,851	3	4	49	1	99.4	0.0	0.1
R5	8,750	8,689	1	11	49	1	99.3	0.0	0.1
R6	8,618	8,548	4	8	58	-	99.2	0.0	0.1

2 高等学校 <表2>

令和6年3月に県内の高等学校(公立37校2分校、私立10校)を卒業した生徒は8,040人でした。大学等進学率は58.4%、就職率は18.8%でした。

<表2> 高等学校卒業者の進路状況

各年 3月	実 数 (人)						割 合 (%)			
	a 卒業生	b 大学等 進学者	c 専修 学校等 進・入 学者	d 就職者	e 左記以外の者 無認可 の予備 校・私 塾等	f (再掲) 左記b,c のうち 就職者	b/a 大学等 進学率	c/a 専修 学校等 進学・ 入学率	(d+f)/a 就職率	(b+c+d +e)/a 進学と就 職の割合
R4	8,517	4,814	1,772	1,580	195 351	156	56.5	20.8	18.6	98.2
R5	8,308	4,774	1,558	1,633	189 343	154	57.5	18.8	19.7	98.1
R6	8,040	4,699	1,515	1,510	159 316	157	58.4	18.8	18.8	98.0

※詳しくは、HPをご覧ください。

(<https://www.pref.toyama.jp/300203/kurashi/kyouiku/gakkou/shinrojoukyou/sotugo.html>)

とやま学校多忙化解消推進委員会

教員の働き方改革、多忙化解消に向けた方策を議論・検討する「とやま学校多忙化解消推進委員会」の第1回会議(キックオフミーティング)を11月20日(水)、第2回会議を2月17日(月)に開催しました。

この委員会は、大橋聡司委員長(富山経済同友会副代表幹事)、笹田茂樹副委員長(富山大学教育学部教授)をはじめ、経済界、法曹界、PTA、校長会、市町村教育委員会、職員団体からの計15名の委員で構成されています。本年度は、今後国会において審議が予定されている給特法の改正を見据え、県立学校における時間外在校等時間の縮減に向けた定量的な目標設定などを定めた「県立学校における働き方改革推進プラン(案)(令和7～10年度)」について議論していただきました。

委員からは、5つの重点取組(「業務改善の推進」「働く環境の整備」「部活動改革」「地域・専門人材の活用」「意識改革・理解促進」)などについて、多くの意見をいただきました。また、若手教員ワーキング・グループからはこれまでの実践報告や今後に向けた提案がありました。

今後は、いただいたご意見や提案などを踏まえ、定量的な目標設定を含むプランを策定し、実効性のあるPDCAサイクルを実施することで、教職員の時間外在校等時間の削減を目指します。

— むすかしいところがおもしろい — ～考えよう 楽しもう 科学の世界～ とやま科学オリンピック2024

今年で13回目を迎えた「とやま科学オリンピック2024」は、8月3日(土)に魚津高校、富山中部高校、高岡高校、砺波高校を会場として中学校部門が、8月9日(金)に富山大学及び県総合教育センターを会場として高校部門が開催され、計431名の生徒(中学校部門244名、高校部門187名)が参加しました。

アンケートでは、「普段では解くことのできないハイレベルな問題に挑戦できたのが良かったです。富山の魅力を知りました。」「2人で協力して答えを出すのが今の時代に求められるコミュニケーションを通して課題解決する力を鍛えられて良いなと思った。」「レベルの高い問題だったので、実験装置を作る時点から大変だったけど、見たことない実験器具などにさわることができて楽しかったです。」という感想がありました。



中学校部門



高校部門(化学)



とやま科学オリンピックHP

親子でSTEAM体験

「親子でSTEAM体験～とやま親と子の【科学×防災】学校～」が8月24日(土)に中滑川複合施設メリカで開催され、県内の小学校5、6年生の児童と保護者が参加しました。前半はDr.ナダレンジャーによるサイエンスショーが行われ、災害が起こる仕組みなどについて実験を通して学びました。後半は、サクラパックス株式会社の方から、災害時に役に立つ段ボールについての話を聞き、最後に参加者全員で段ボールベッドの組み立てを体験しました。

児童や保護者の感想には、「地震のときの避難の仕方や段ボールの使い方を知ることができた」、「もし災害が起こったら、今日学んだことを活かして、周りの人を助けたいと思った」、「親子で楽しみながら科学への理解や防災意識が高まってよかった」、「災害に対する備えをしていないので、家族で話し合ってみたいと思った」というものがありました。



災害の不思議を体験しよう



段ボールと科学の関係について考えよう



段ボールベッドを組み立ててみよう